※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　(学)国際文化科

教科	(学)国際文化	科目	国際理解	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	自作テキスト						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

従来の「授業」・教室にこだわらない様々な授業形態を実施・模索する。(CAL教室/セミナールーム/図書館/ディベート/プレゼンテーション/調べ学習(個人/グループ)生徒の積極的参加の可能性を常に設定する。多くの情報・現象・問題から各自のテーマを発見し、問題解決の形態を模索する。

2　学習の到達目標

国際社会の諸現象及び国際関係についての正しい認識を持ち､国際社会の一員としての感性と判断力と行動力の養成を目指す。異文化・多文化・他文化理解／情報能力（アクセス・発信・分析・リテラシー）／人権を３つの基本柱とする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	国際社会に対する基礎的な用語の理解および諸制度に対する理解の定着をはかる。また、さまざまなデータから諸制度の変遷や動向に対する理解を深めている。	国際社会のしくみについて、日本と諸外国との違いに対する理解を深め、その特徴を捉える。そして、さまざまな制度の長所と短所等について自分の考えをまとめ、さまざまな社会課題の現状を捉えている。	国際社会の諸課題に対する当事者としての意識を高め、その解決に向け考察を深める。そして、自らの希望進路に照らし、これからの社会の担い手としての意識を向上させている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	国際理解入門 年間テーマ設定 リサーチ法入門	基礎知識蓄積・必要スキル(PC・プレゼンテーション・レポート作成など)の学習相互意見交換・テーマ共有	a: 国際社会に対する基礎的な用語を理解している b: 国際社会のしくみについて、日本と諸外国との違いに対する理解を深める。 c: 国際社会の諸課題に対する当事者としての意識を高め、その解決に向け考察を深める	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション
	国際理解学習の共通テーマ及び各自の年間テーマ 課題別学習	現実の諸課題・テーマへのアプローチ方法指導 前半レポートテーマ選択	a: 国際社会に対する基礎的な用語を理解している b: 国際社会のしくみについて、日本と諸外国との違いに対する理解を深める。 c: 国際社会の諸課題に対する当事者としての意識を高め、その解決に向け考察を深める	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション
後期	レポート・プレゼンテーション・企画書・リサーチ方法応用・実践	情報・資料共有、課題学習、共通テーマ及び各自の前期 テーマ共有・レポート作成指導・プレゼンテーション	a: 国際社会に対する基礎的な用語を理解している b: 国際社会のしくみについて、日本と諸外国との違いに対する理解を深める。 c: 国際社会の諸課題に対する当事者としての意識を高め、その解決に向け考察を深める	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション

※令和４年度以降入学生用

	国際理解課題学習 テーマ探究 国際理解の課題別学習 共通テーマ及び各自のテーマ設定 国際理解の課題別学習 最終年間テーマ	基礎からより高度な知識蓄積 PC・プレゼンテーション・企画書・リサーチ方法応用実践	a: 国際社会に対する基礎的な用語を理解している b: 国際社会のしくみについて、日本と諸外国との違いに対する理解を深める。 c: 国際社会の諸課題に対する当事者としての意識を高め、その解決に向け考察を深める	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション	知識・観察(問題設定・課題発見)レポート・プレゼンテーション

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度